令和6年度　江戸川区立上一色南小学校　学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	○明るくのびのび行動する子供 ○創造性を生かし、自ら学ぼうとする子供 ○仲間を大切にし、力を合わせる子供 ○健康な体と強い意志で、粘り強くやりぬく子供	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	○相手の気持ちを考えることができる子供 ○最後まであきらめないでやりぬく子供 ○問題を解決するためにどうしたらよいか考える子供
前年度までの本校の現状	成果：朝学習、授業中、宿題などでドリルパークによる復習を徹底してきたことで、タブレット学習の実施率が平均で1日2回程度となり区内で最高となった。毎週１回の運動遊び、学期に1回ずつの長縄週間、前期の持久走を行うことができた。また、業間休み・昼休みの外遊びの日常化が図れている。学校評価のすべての項目において８０％以上の評価を得ることができた。	課題	・全国学力調査におけるAB層の割合は昨年度より多くなっているが、本校の目標値には達していない。個に応じた指導をより一層進め、CD層の底上げを行うとともに、AB層においては達成感を味わえるように授業改善を図っていく。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価(A～D)		「中間」学校関係者評価(A～D)		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				９月	２月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	○児童の学力向上及び授業力向上	教育課題実践推進校として算数科の研究に取り組こと で、授業力向上と学力向上を図る。	学力調査において区の平均点の獲得を目指す。	A	B	A	全国学力・学習状況調査の結果で、国語・算数ともに全国平均に達している。また、意識調査では意欲の高まりが見られた。	A	６年生の全国学力調査の結果が向上していることが、取り組みの成果を表している。	C	６年での成果が目立つが、全体的に国語の言語関係や算数の基礎的計算力などに課題がみられるので、取り組みを続行する。	B	高学年の頑張りの成果が、他の学年においても生かすことができるように、引き続きの取り組みを期待する。	調査を通して見られた個々の課題を克服するために、タブレットを復習に活用する。
	○個別最適な学びの実現	ipadを授業に加え、朝学習などの個別学習でも活用し、個に応じたペースで学習を進める。	保護者アンケートの学力向上のための取組の工夫の肯定的評価８０％を目指す。	B	B	B	ミライシードを活用した進めているが、まだまだ個人の学習理解度の差がみられる。	B	児童がタブレットを積極的に活用する様子が見られる。今後も家庭学習も含めてipadの活用推進を期待する。	C	調べる学習や復習、漢字や計算などの基礎力向上に活用できている。今後も一人一人の課題に合わせた活用をしていく。	B	タブレットを活用した学習に慣れてきているが、必要以上のタブレットの使用が無いようにしていきたい。	タブレットの使用の決まりを改めて確認し、適切な活用ができるように指導を続ける。
	○読書科の更なる充実	司書、図書館ボランティアと連携し、効果的な図書館の活用や定期的な読み聞かせ等に取り組む。	図書活用の基礎技能を身に付けさせる。月２回の読み聞かせの時間を設ける。	B	A	B	朝読書や関係者と連携して取り組んでいる読み聞かせを通して、読書に対する興味関心を高めることができた、	B	子どもたちが読書に親しむための諸活動が行われている。また、図書ボランティアの活動も読書環境向上に貢献している。	A	新刊本の配架作業や図書室の環境整備などを通して、環境を更新することできた。授業での図書の活用も活発に行われた。	A	図書ボランティアを中心に、学校と家庭とで連携して、読書に親しむ環境づくりが行われている。	支援員や図書ボランティアと連携を深め、子どもたちにとってより良い読書環境を構築する。
体力の向上	○体育授業の充実	系統性を重視した年間指導計画による指導を徹底し、様々な運動に触れる機会を確保する。	８割の児童が体育の授業が楽しいと感じる授業を行う。	A	A	A	体育授業実践の工夫により、どの学年においても体育を楽しいと感じる児童の数が９割を超えている。	A	子どもは、体育の授業や学校行事に生き生きと取り組んでおり、運動への意欲向上につながっている。	A	教員間で連携を取りながら、体育の授業に取り組むことで、互いの授業技能を伸ばしながら子どもも楽しめる実践ができた。	A	子どもは、体育の授業を楽しみにしており、楽しみながら様々な運動の体験をすることができている。	体育授業の技能向上のために、教師間の教え合いや情報共有を進めていく。
	○児童の基礎体力の向上	学校独自の縄跳びや持久走への取り組みを通して、楽しみながら運動に取り組み、運動の日常化を図る。	全ての児童が、毎週１時間以上の運動に取り組むことを目指す。	A	A	A	上南タイムで持久走や長縄跳びに取り組むことで、児童の体育的技能や体力を高めることができている。	A	学校で取り組んでいる持久走の様子を参観する機会があり、子どもたちの頑張る姿が見えた。	A	全校での運動に関する取り組みが結果が、スポーツテストの結果に表れており、瞬発力や持久力を高めることができた。	A	学校公開の時以外にも、体力向上の取り組みを参観する機会が度々あり、非常によかった。今後も実施を期待する。	今後も児童が楽しみながら、体力の向上を図ることのできる学校行事に取り組んでいく。
	○進んで体育に取り組もうとする意欲の育成	運動や健康についての自己課題を理解し、その解決に向けて思考判断する機会を設定する。	スポーツテストの意識調査において運動を好む児童の割合９割を目指す。	A	A	A	体力テストの意識調査の結果では、全ての学年でスポーツ対する肯定的な回答の割合が９割を超えている。	A	縄跳びや持久走に全校一斉に取り組む機会があり、体育の時間以外にも運動に親しむ機会が多く設けられている。	A	らんらんフェスティバルなどの体力づくりの成果を表現する機会を通して、運動に進んで取り組む意識を高めることできた。	A	運動に積極的に取り組もうとする意識気が養われており、それに伴い体力の向上も図られていると感じる。	今後も目標をもって運動に取り組むことができる活動を推し進めていく。
共生社会の実現に向けた教育の推進	○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実	特別支援教室専門員・巡回指導・日本語指導員や日本語教室との連携	支援を受ける児童の情報を共有する場を月１回設け普段の指導に生かしていく	A	A	A	常に児童の情報を交換しながら連携し、指導にあたることができた。	A	支援を必要とする子どもたちのための取り組みがなされている。今後も引き続きの支援を期待する。	A	年間を通して児童への適切な支援を行うことできた。今後も、連携しながら支援に取り組んでいく。	A	子どもたちのニーズに合わせた支援が行われている。今後も引き続きの取り組みを期待する。	教職員と専門スタッフの連携を深め、より適切な支援が行う。
	○エンカレッジルームの活用促進	特別な配慮を要する児童には、エンカレッジルームを活用して、個に応じた適切な支援、指導を行う。	学校説明会や保護者会などの機会にエンカレッジルームについて紹介していく	B	A	B	特別な配慮を要する児童への支援の場として、エンカレッジルームを活用し、成果をあげることができた。	B	子どもが気持ちを落ち着かせたり、切り替えたりするための部屋があることで、安心して過ごすことができている。	B	児童が落ち着くことができる環境を維持することで、気持ちをリフレッシュさせることができた。	B	気持ちの切り替えが可能な場所があることは、児童にとって非常に良い支援につながっている。	物理的環境は整備されているので、今後は人的環境整備に注力していく。
	○副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	鹿本学園との共同学習や児童同士の交流を通した体験的な学習を実施する。	年1回以上の実施	A	A	A	児童の相互理解に資するように鹿本学園との交流実施に向けて、計画を立てることができた。	A	これまでと同様に、児童同士が触れ合う機会を設定していくこと期待する。	A	今年度も鹿本学園と交流会交流会を実施した。ゲームや踊りの披露などの活動を通して交流を深めることができた。	A	鹿本学園との交流活動を通して、互いの理解を深めることができたと思う。	次年度以降の活動に向けて、教員同士の連携を深めていく。
不登校・いじめ対応の充実	いじめや不登校対策の実施・充実	毎週、生活指導夕会を行い、問題行動の早期発見・早期対応、事故等の未然防止に努める	保護者アンケートの「いじめの防止」に対する肯定的評価を80%以上とする。	B	B	B	ふれあい月間や生活指導夕会での情報共有を通して、いじめ・不登校対策に取り組むことができている。	B	悩みをもつ子どもたちに家庭と学校が協力しながら、対応に取り組んでいる。	A	担任が一人で抱え込まないように、全体で児童の情報を共有し、学校と家庭で連携しながら解決に取り組んできた。	A	子どもたちの困りごとについて、より素早く解決ができるように、今後も家庭と学校の連携に取り組みたい。	まだまだ、支援継続中のケースがあるので、引き続き全体で解決に取り組んでいく。
	hypaer-QUの活用	QUの分析結果を児童一人一人の支援に生かす。１学期末の個人面談時に保護者と共有し連携を図る。	１学期末の個人面談時に保護者と共有し連携を図る。	B	B	B	hypaer-QUの結果を踏まえて保護者面談を実施し、今後の児童の支援について家庭と共有を図ることができた。	A	１学期の間に２回の個人面談があり、学校での子供の様子を聞くことができて良かった。	A	hypaer-QUの実施を通して、客観的に児童の社会的な支援課題への理解を深めることができた。	A	複数回の面談の機会を通して、学級での様子や友人関係のことを知ることができてよかった。	より素早く児童理解に取り組めるように、ウェブ版のhypaer-QUの活用を検討したい。
	教育相談の強化	SC及びSSWとの連携を図り、児童のケアに努め、すべての児童が安心して生活できるようにする	5学年全員面接を実施。職員間で共有した情報を基に教育相談につなげていく	A	A	A	授業観察や個別面談、５年生の全員面談を通して児童の課題に寄り添い、支援のための情報を共有することができた。	A	スクールカウンセラーが保護者との面談の機会を設けていることで、様々な相談ができてよかった。	A	スクールカウンセラーとの児童の情報の共有が効果的に図られ、支援に役立てることできた。	A	SCの先生との面談で、子どもの悩み事について話を聞いてもらい、アドバイスを受けることができてよかった。	SCを介した相談体制が非常に有効であるので、今後も連携を取りながら取り組みを進めていく。
地域社会に開かれた学校（園）の実現	学校（園）ホームページの充実等	学習規律、生活規範に関する「７つの合い言葉」の取組状況をHPに掲載し保護者・地域と連携強化を図る	「７つの合い言葉」における達成率を全学年で5%向上させる。	B	A	B	１学期の結果をホームページに掲載し、保護者に周知を図った。また、すべての項目において８割以上達成できている。	B	「７つの合い言葉」の取り組みの様子が、ホームページや校内掲示で知ることができた。	A	「７つの合い言葉」多くの項目において、非常に高い目標を達成でき、その成果をHPや校内掲示で周知できた。	A	児童の頑張りが目に見える形で示されていることが、子どもたちの生活改善の意欲向上につながっている。	取り組みで見えてきた生活に関する課題も見られるので、改善の取り組みを続けていく。
	学校（園）公開の実施・充実	年４回の学校公開を実施する。親子参加型の道徳授業地区公開講座を行い教育活動への理解促進を図る。	保護者アンケートの「家庭地域との連携を深める取組」の肯定評価を85%以上とする。	B	A	B	１学期に２回学校公開を実施し、保護者や地域の方の参観を通して、学校の教育活動について理解をいただいている。	A	学校公開の機会に、子どもの学校での様子を知ることができた。今後の運動会や展覧会が楽しみである。	A	「家庭地域との連携を深める取組」の肯定評価が85%から95%に大幅に向上させることができた。	A	子どもたちの学校での様子を直接見ることができる機会が多くて良かった。今後も同様の活動を期待している。	次年度以降も、家庭・地域との連携を目指して、子どもの様子を共有する活動に取り組んでいく。
	教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	ネットを活用した学校関係者評価を実施し意見を募る。それらをもとに改善向けた方針をまとめる。	保護者アンケートの回収率を80%以上とする。	A	A	A	昨年度のアンケートの結果を分析し、本校の教育課題についての分析に取り組んでいる。	A	児童の頑張りや、学校としての取り組みを具体的数値を通して知ることができた。	A	昨年度に引き続き、学校の教育活動に関する意見を具体的に知ることで、成果を課題をより明確に理解することができた。	A	今年の学校アンケートの結果を活用して、子どもたちにとってより良い環境づくりに取り組めるように協力していきたい。	今年度のアンケートを受けて見えてきた課題の解決に取り組んでいく。
特色ある教育の展開	１人１台端末を効果的に活用した学習習慣の確立	毎週金曜日の朝学習、毎日の家庭学習、日々の授業においてタブレットを活用し学習習慣を確立させる。	朝学習で前学年の復習を９月まで、当該学年の復習を行い３月までに終わらせる	B	A	B	１日平均で１０～２０分間ぐらいの時間をミライシードでの学習に取り組み学習内容の定着を図っている。	B	学校の授業でタブレットを使用したり、復習や学校の宿題に取り組んだりする姿が見られ、積極的に活用されている。	B	普段の活用に加え、江戸川区の学力調査の復習にタブレットを活用することができたが、活用状況に個人差が見られた。	B	復習にタブレット学習で取り組んでいるが、タイピングなどのゲーム的要素があるものに夢中になる様子がみられる。	タブレットを活用して、学力調査から見えてきた学習課題に繰り返し取り組んでいく。
	体育的行事と体力向上を目指した運動の日常化	毎週１回の運動遊び、学期に1回ずつの長縄週間、年間2回の持久走を実施する。外遊びの日常化を図る	保護者アンケートの「たくましい子を育てるための取組」の肯定評価を90%以上とする	A	A	A	持久走や縄跳びに全校で取り組み体力と運動意欲の向上を図ることができた。体力調査では跳力・持久力の結果が良かった。	A	学校全体で、らんらんフェスティバルに取り組んだことで、体力の向上が図られていると思う。	A	アンケートで「たくましい子を育てるための取組」の肯定評価が96%であり、取り組みへの理解が得られたと考えられる。	A	様々な学校行事を通して楽しみながら運動に取り組む機会があり、子どもの体力向上につながっている。	体力テストで見られた課題を解決するための取り組みを工夫していきたい。
	陶芸・クロッキーに親しみ感性を育む	陶芸の授業及びやきもの展、クロッキータイム及びクロッキー展を行い情操教育の充実を図る。	保護者アンケートの「豊かな感性を育むための活動」の肯定評価を95%以上とする。	A	A	A	学校で一斉にクロッキータイムに取り組むという共通体験を通して、児童の情操を育むことができた。	A	毎月実施しているクロッキータイムで、図工の時間以外にも楽しみながら美術的活動に取り組むことができている。	A	年間を通して取り組んだクロッキータイムは、豊かな心の育成に大きく資することができた。	A	今年の展覧会を通して子どもたちの豊かな情操が培われてきているのを感じた。	本校独自の活動であるクロッキータイムを、今後も発展させていきたい。